

パネルディスカッション第2部

「現代大学生像から見えてくるキャリア教育への示唆」

# 大学カリキュラムのなかのキャリア教育 —能力論的検討—

大学生研究フォーラム2008

2008.8.2

松下 佳代

京都大学・高等教育研究開発推進センター  
[kmatsu@hedu.mbox.media.kyoto-u.ac.jp](mailto:kmatsu@hedu.mbox.media.kyoto-u.ac.jp)



# contents

---

- 本報告の位置づけ
- 学歴の意味の変化
- 「学士力」という概念
- 能力概念の変容とカリキュラム改革
- キャリア教育への幻想
- キャリア教育の問題と課題
- キャリア教育の可能性
- 興味深い事例

# 本報告の位置づけ

---

- 大学生に対するキャリア教育
  - キャンパス内
    - 正課教育
    - 正課外教育
  - キャンパス外
  
- 私の報告の課題
  - 正課教育でのキャリア教育について、特に能力論の観点から検討すること

# 学歴の意味の変化(1)

---

## □ 就業機会における学歴格差の拡大

(労働政策研究・研修機構, 2006)

### ■ 2001年と2006年の変化

- どの階層でも、正社員比率が大きく低下し、アルバイト・パート、契約・派遣等が増加

### ■ 正社員比率： 高卒 < 短大・高専/専門卒 < 大学・院卒

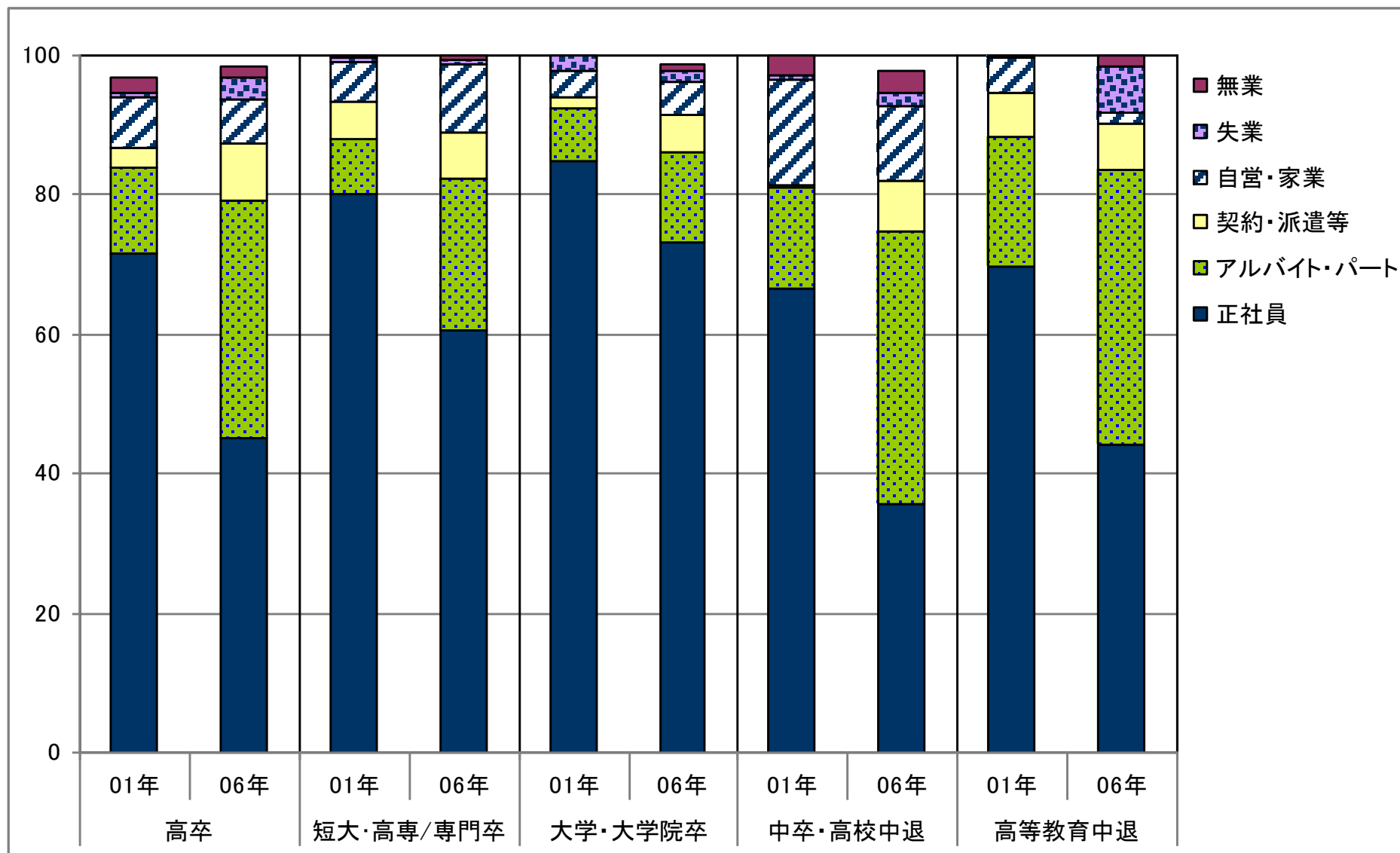
- その差は、5年間で大きく拡大

### ■ 卒業者と中退者の差

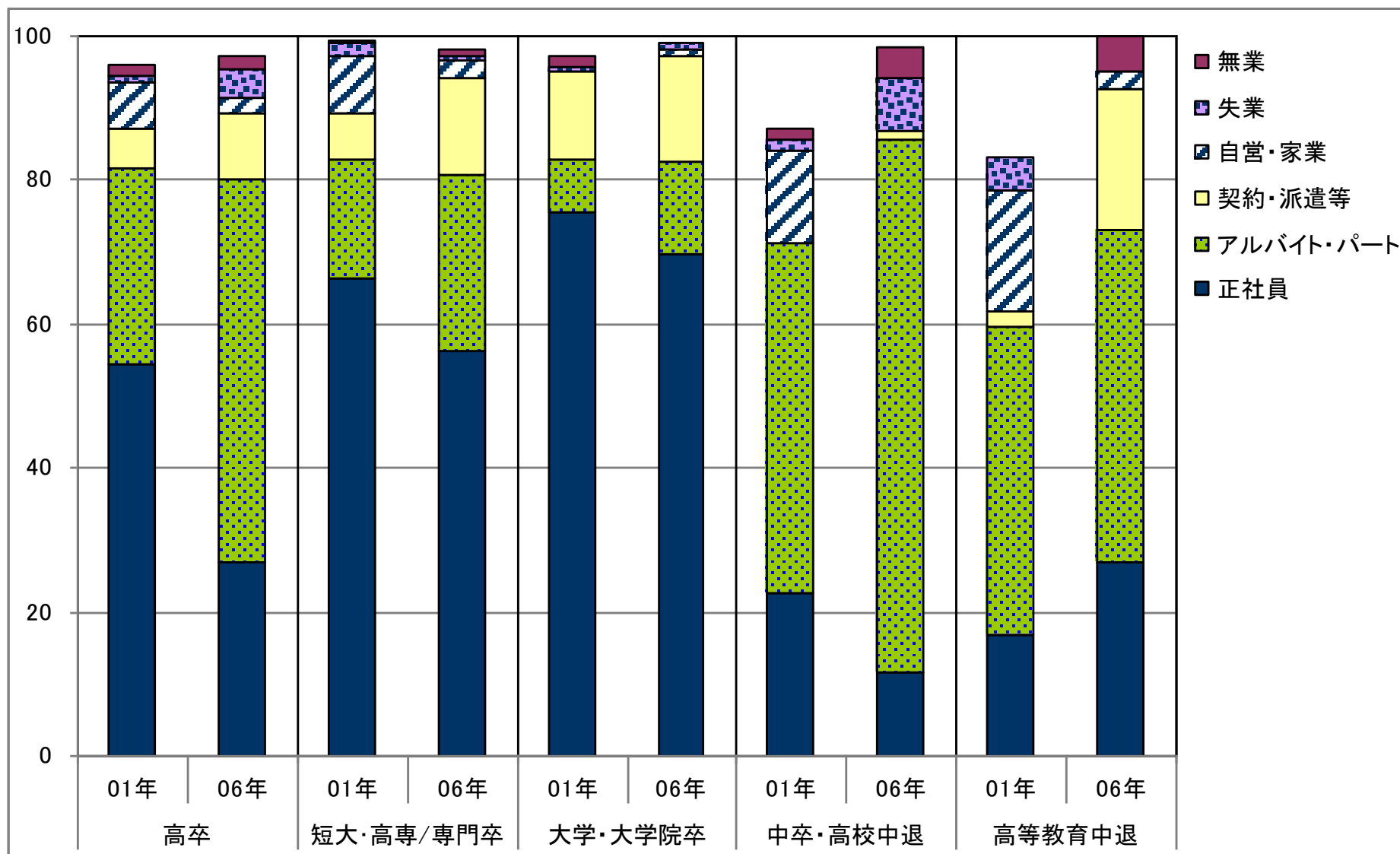
### ■ 男性と女性の差

- 女性は、正社員が少なく、契約・派遣等が多い

# 図1-1 性別・学歴別の就業状況(男性)



# 図1-2 性別・学歴別の就業状況(女性)



# 学歴の意味の変化(2)

---

- 高等教育学歴・・・十分条件ではなく必要条件に
  - 正社員比率・・・大卒・大学院卒でようやく70%前後
  - 高等教育中退者の就業状態の劣悪さ・・・高卒以下  
  鯨
- 大学教育の〈質〉が問われる

# 「学士力」という概念(1)

## □ 「学士課程教育の構築に向けて」

(中央教育審議会大学分科会, 2008)

### ■ キャリア教育という点からも注目すべき内容

「キャリア教育は、生涯を通じた持続的な**就業力**の育成を目指すものとして、教育課程の中に適切に位置づける」

\* 就業力=employability

### ■ 正課教育の中のキャリア教育： 2種類

□ ①特定の授業科目として

□ ②授業科目全般にかかわる能力目標として

…本報告の関心

# 「学士力」という概念(2)

## □ 能力目標としての「学士力」

### ■ 「学士力」… 学士課程共通の「学習成果」の指針

#### □ 「入口」の質保証 → 「出口」の質保証



#### □ 自立した市民や職業人として必要な能力の育成

#### | 他省庁との連動

- 厚生労働省「就職基礎能力」(2006)
- 経済産業省「社会人基礎力」(2006)

# 「学士力」という概念(3)

- 1. 知識・理解
- 2. 汎用的技能 \* generic skills
  - コミュニケーション・スキル／数量的スキル／  
情報リテラシー／論理的思考力／問題解決力
- 3. 態度・志向性
  - 自己管理力／チームワーク、リーダーシップ／倫理観／  
市民としての社会的責任／生涯学習力
- 4. 統合的な学習経験と創造的思考力

# 能力概念の変容と カリキュラム改革(1)

---

- 「学士力」のもとになった能力概念
  - generic skills, employability, competency など
- 日本だけでなく、先進国共通の傾向
  - 共通の課題と共通の処方箋
  - 新しい能力概念にもとづくカリキュラム改革
- ヨーロッパの場合
  - Tuning Project cf. 松下(2007)

# 【参考】 Tuning Project

## □ 目的

- ボローニャ宣言の実現(欧州高等教育圏の建設)に向けて、各国の大学がカリキュラムを調整していくための方法論
- 知識基盤社会に向けた若年労働者の育成

## □ 方法

- competenceの抽出: 卒業生・雇用主・大学教員から  
一般的 → 各領域  
\* competence ≡ employability, generic skills
- competenceを体系的に獲得させるカリキュラム・デザイン

	コンピテンス									
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
科目1		X			X					
科目2	X			X			X			
科目3		X				X			X	
科目4	X		X							X

## ■ Tuning Projectにおける一般的コンピテンス

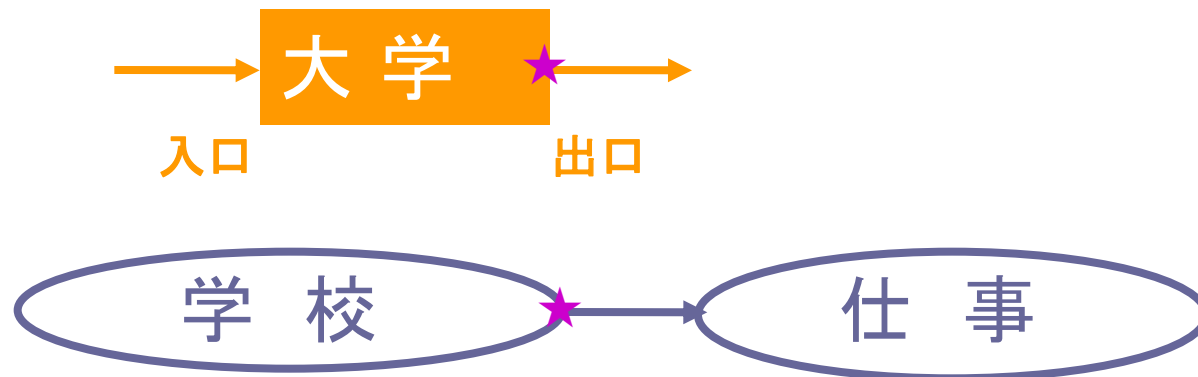
最も重要と評価された一般的コンピテンス(上位5つ、回答者群別)

卒業生	雇用主	大学教員
<ul style="list-style-type: none"><li>・分析と総合の能力</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・学習する能力</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・基礎的な一般的知識</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・学習する能力</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知識を実践に適用する能力</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・分析と総合の能力</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・知識を実践に適用する能力</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・分析と総合の能力</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・学習する能力</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・基礎的な計算技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・新しい状況に適応する能力</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・新しいアイデアを生み出す能力(創造性)</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・新しい状況に適応する能力</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・対人的スキル</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知識を実践に適用する能力</li></ul>

# 能力概念の変容と カリキュラム改革(2)

## □ 共通の課題と共通の処方箋

- 「新しい能力」を身に付けさせることで、
- <グローバル経済社会からの労働力要請>に応え、  
<学校から仕事への移行>を容易にするという考  
え方



## □ キャリア教育への幻想をもたらす危険

# キャリア教育への幻想(1)

## □ ①個人の能力開発への焦点化

- ↔ 就業機会は、現実には労働力の需給関係に規定
- ロストジェネレーションとポスト・ロストジェネレーションの差

## □ ②「学士」「大学生」という集合概念

- ↔ 「グローバル化する知識基盤社会」では人材が二極化

- <高度な知的労働者> ↔ <低スキル・感情労働者>

- ↔ 女性と男性の違い

# キャリア教育への幻想(2)

---

- ③「目的合理性」「計画性」のイデオロギー
  - ⇔ リスク社会における人生経路 (biography) の流動性の高さ
    - choice biography ↔ risk biography  
(Furlong & Cartmel, 2007; 乾, 2006)  
… = 選択における格差 (②と③)

# キャリア教育の問題と課題

---

## □ 個人主義的

⇒ 後期近代では、人生が「個人化」(ベック, 1998)しているのは確かだが、だからこそ、社会関係資本(ソーシャル・ネットワーク)の構築が重要

## □ 適応主義的

⇒ 現実に即しつつも、どう現実を作りかえていくかという視点が、同時に必要

## □ 抽象的

⇒ 「大学生」の多様性をふまえたキャリア教育を

# キャリア教育の可能性(1)

## □ 対象世界・他者(社会関係)・自己という視点

【参考】OECD-DeSeCoのコンピテンシー概念(松下, 2007)

<p>カテゴリー1 道具を相互作用的に用いる</p>	<p>A 言語、シンボル、テキストを相互作用的に用いる B 知識や情報を相互作用的に用いる C テクノロジーを相互作用的に用いる</p>
<p>カテゴリー2 異質な人々からなる集団で相互に関わりあう</p>	<p>A 他者とよい関係を築く B チームを組んで協同し、仕事する C 対立を調整し、解決する</p>
<p>カテゴリー3 自律的に行動する</p>	<p>A 大きな展望の中で行動する B 人生のプランや個人的な計画を設計し、実行する C 権利、利害、限界、ニーズを擁護し、主張する</p>

# キャリア教育の可能性(2)

---

- 「ライフ」の二重性 (溝上, 2008)
  - (a) 人生としてのライフ
    - = 職業・進路選択、生き方、将来展望などの人生設計
  - (b) 日常生活としてのライフ
    - = 正課・正課外の活動、キャンパス以外の活動全般
  
- この二重性を生きること
  - = (a)のために(b)を手段化しない

# キャリア教育の可能性(3)

---

- 能力の機能的側面と批判的側面
  - <個人が変わること>と<社会を変えること>
  - 「社会は作られてきたものであり、したがって作りかえることができる」ということを、どこかで学べる機会を

# 興味深い事例(1)

---

- 神戸女学院大学「女性のライフステージに応じたキャリア教育」(平成19年度現代GP採択)

<http://www.kobe-c.ac.jp/cdp/index.html>

- リベラルアーツを土台としたキャリア教育
- 主専攻×副専攻 → 職業に向けたイメージ化・能力形成
  - 英文学×ホスピタリティ・マネジメント → ホテル、航空、観光 など
  - 音楽学×ボディ・サイエンス → 音楽療法士 など
- 実践者を講師とするワークショップ型授業、修了プロジェクトの公開・全学への波及

# □ キャリアデザインプログラム (神戸女学院大学)

		リベラルアーツ&サイエンス					
		主専攻 (124単位)					
		英文学科	総合文化学科	音楽科	心理・行動学科	環境・バイオサイエンス学科	
4 コース	副専攻	メディア・コミュニケーション					<b>必修 (10単位)</b> 実践者講師による授業
	アート・マネジメント						
	ホスピタリティ・マネジメント						
	ボディ・サイエンス						
		<b>選択 (12単位)</b>					

# 興味深い事例(2)

## □ 特徴

- 女性のbiographyへの着目 ……非・抽象的
  - 男子学生よりはるかに多様
  - 「就職力」の形成のみに焦点化 → 家庭や地域においても発揮される多様な能力の形成
- 多様な人間関係を充実させうる—それによって自己の多様性も結びつけうる—インターフェースの能力への着目、それを具体化するワークショップ型授業、成果の公表・共有 ……非・個人主義的
- 今日の社会環境に適応しうる女性の育成だけではなく、女性の力が発揮される社会づくりに向けた力の育成 ……非・適応主義的

# 文 献

- U. ベック(1998)『危険社会』(東廉・伊藤美登里訳)法政大学出版社.
- 中央教育審議会大学分科会 制度・教育部会 学士課程教育の在り方に関する小委員会(2008.3)「学士課程教育の構築に向けて」(審議のまとめ)
- Furlong, A. & Cartmel, F.(2007) Young people and social change. Open University Press.
- 本田由紀(2008)『軋む社会』双風舎.
- 乾彰夫編(2006)『18歳の今を生きぬく』青木書店.
- 児美川孝一郎(2007)『権利としてのキャリア教育』明石書店.
- 松下佳代(2007)「コンピテンス概念の大学カリキュラムへのインパクトとその問題点—Tuning Projectの批判的検討—」『京都大学高等教育研究』第13号, 101-119.
- 溝上慎一(2008)「調査にあたって」『大学生のキャリア意識調査2007調査報告書』.
- 労働政策研究・研修機構(2006)「大都市の若者の就業行動と移行過程—包括的な移行支援に向けて」『労働政策研究報告書』No.72.
- D. S. ライチェン&L. H. サルガニク(2006)『キー・コンピテンシー(立田慶裕監訳)明石書店.
- R.セネット(2007)『不安な経済／漂流する個人』(森田典正訳)大月書店.